

一般質問とは、議員が町の現在の施策、将来の考え方や説明を町長などに求め、町民のための適切な町政運営を行っているかチェックするものです。

語り継ぐ2020の歴史をつくりましょう

戸口 勝が問う



東京2020に向けた戦略は

答弁 機運醸成・魅力発信します

Q 開催に伴う外国人観光客の増加を、当町への観光及び経済効果に結びつける考えはあるか。

A にぎわい創出課長 開催1年前イベントが開催され、上尾会場及び入間会場に参加し、地酒や和紙、町内各種イベントや地域のPRを行うとともに、和紙の織染め体験を行いました。今後も各種イベントに積極的にかわり、インバウンドの誘客を進めたいと考えています。



和紙すき体験で、外国人観光客の誘客につなげよう。

A 生涯学習課長 パラリンピック聖火リレーに係る採火式と、聖火を当町に持ち帰って大会を祝う聖火ビジットを、機運醸成と次世代に受け継ぐ内容にしたいと思えます。

Q 機運醸成を図るとともに、広い分野で有形・無形のレガシーの構築はあるか。

A 学校教育課長 子供たちに一生の財産として心に残るような機会を提供したいと考えており、オリンピック、パラリンピックの観戦について検討していきます。

初めての避難です。大雨特別警報を聞いて

井口 亮一が問う



避難した1400人超の声は

答弁 さまざまな意見がありました

Q 27カ所の指定緊急避難場所を利用した町民の声は、どのようなものであったか。

A 防災地域支援課長 「避難場所への表示がなく、開設しているのかよくわからなかった」「職員の数足りないのではないか」「職員に親切にしてください」など、さまざまな意見がありました。

Q 避難場所での対応に当たった職員の苦勞は、どのようなことだったか。

A 防災地域支援課長 12日の夕方から職員数をふやして対応を行いました。長時間の業務となり、大勢の避難町民に対応したことから、心身ともに大変であったかと思えます。

産学官連携による調査研究は

A 町と商工会、金融機関、大学が連携した地域経済とまちづくりは。
Q にぎわい創出課長 町は金融機関・商工会・県の物産観光協会と地域経済活性化の取り組みを進め、複数の大学からアドバイスを受け、現在も進行中です。今後各種大学や商工会・金融機関・企業との連携協力を進めます。



ラグビーワールドカップ2019。おもてなしエリアに出店しました。(連携事業)

「生きてこそ…」命が最優先であるべきです

笠原 規弘が問う



激甚化する風水害に水防団の設置を

答弁 消防団がその役割を担っています

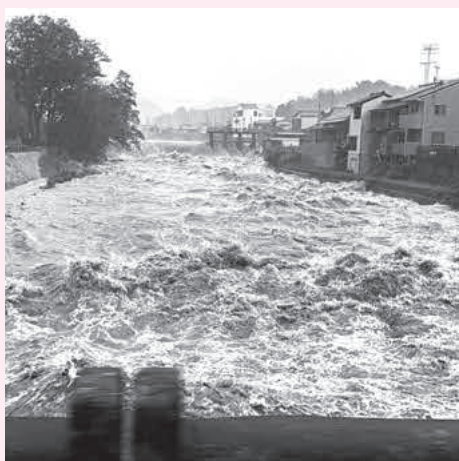
Q 防災アドバイザー山村武彦氏は、水害は「点ではなく面で」、つまり河川広域で捉えるべきと提唱している。台風19号接近時、災害対策本部は槻川上流東秩父村の雨量を意識した分析をしていたのか。

A 防災地域支援課長 気象庁による雨量予測を分析するとともに、東秩父村大内沢やパトリアおがわの雨量計、消防署や消防団による目視等で河川の状態を把握していました。また、近隣町村の防災担当課との綿密な連絡をとっていました。

Q カメラつき電子機器の普及により、多くの方が当町観測史上最強レベルの台風を撮影したのではないかと。町民に提供してもらい「記憶から消えぬよう記録に残す」資料の作成を望むが。

A 防災地域支援課長 写真や動画は貴重な情報になると認識しています。ご提言を受けとめ、今後の防災対策につなげる方策を考えていきます。

Q 河川の増水を見に行き、被害に遭う方が絶えない。河川にカメラを設置し、リアルタイム発信を検討できないか。
A 防災地域支援課長 災害の未然防止につながるよう、槻川など具管理の河川への設置について、県に要望していきます。



みんな自分だけは災害に遭わないと思っている(私も)。(10月12日14時相生橋より撮影)

里山風景
心安らぐ小川町。



(S・Mさん・61歳)

古きと新しさが絶妙に
混ざり合う豊かなまち。



(A・Kさん・30代)

人がやさしく伝統息づく
和紙の里小川町。



(S・Nさん・66歳)

Mini Column

オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「あなたが考える町の
キャッチコピーは」